

# 保育総合研究会 臨時

# News

VOL.3 2020.6.1

発行人 保育総合研究会 会長 栴沢 幸苗

発行元 事務局長 社会福祉法人 東明会

飯沼こども園 理事長 東ヶ崎静仁

〒311-3153 茨城県東茨城郡茨城町上飯沼 1276-1

029-292-6868 Fax 029-292-3831

E-mail iinuma-n@ans.co.jp

全国会員数 97名

## 【副会長挨拶】 田和由里子 広報誌「臨時 News VOL.3」ご挨拶

保育総合研究会の皆様お元気でしょうか？

栴沢会長、春の叙勲「瑞宝単光章」受賞 誠におめでとうございます。2月の年次大会以降

毎日、毎日新型コロナ対応で本当に心も身体も疲れしました。NO.2の最後に次回は「明るい News を」とありましたが、やはりコロナ関係になってしまいます。

7月には定例会開催地として選んで頂いたのですが、このような状況なので見送りさせていただきました。福山市も4月2日に初めての感染者が出ました。4月25日に22人の感染者が出てしばらくはいなかったのですが、5月17日に再感染が報告されました。

補助金も当初、福山市は事務手続きが煩雑なので対応しないとのことでしたが、上限 40 万円の補助金となりました。(なぜ 40 万円なのか今だに疑問? です。補助金がない先生方には申し訳ありませんが) 子どもたちの欠席率(登園自粛)も市内の小学校・中学校の臨時休校に伴い、保育料の減免などの対応が出されたが、4 割の欠席率でしたが、次の週には休業補償対応や休業の保護者の協力が得られるようになってからは、6 割の欠席率でした。5 月 15 日には緊急事態宣言が解除されましたが、世間では第 2 波が必ず到来するといわれています。私たち保育現場は、以前より衛生面にはかなり神経を注いで保育をしてきました。子どもたち、保護者、職員、周りの人たちが感染しないように「新しい生活スタイル」と言われていますが、気を緩めることなく生活をしていきたいと思います。1 日も早く保総研の皆様と研修会でお会いできることを願っております。(春日こども園 田和 皆様お元気にお過ごしでしょうか?)

追伸:「本当は以前のように会議の後の懇親会&3次会、4次会をしたいです」とのこと、永田君平山君、今度は朝まで田和先生に付き合ってください。

## ☆2020年 令和2年度定例会等事業予定

(保育科学等、コロナ感染によって延期・中止の可能性が高いと考えられます。早めに連絡をします。)

2020.7/13-14・定期総会及び第66回定例会 広島県福山市 残念ながら中止

2020.9/1-2 第67回定例会 名古屋市 東海学園大学 検討中

☆今回の情報提供 P1-2 田和副会長

P4 ・『保総研の歴史 No.2』今さらながら どうして 世界文化社(ワンダーのこと)

P5-6・『人事院勧告』と『9月入学』 そんなことないよね 危惧(・・・?)

**P7-9 ・『コロナ・ウィルス感染予防への投稿(青木先生/東京) 総会屋のように声を上げてました』**

「東京だけワーワー言っているのかもしれませんが。一枚岩になって今後を考えていただければと思います。」

P10・「新型コロナウイルス感染における保育施設アンケート(案)」

**編集誤記**

◆ 次回6/15発行はいよいよ「7プロポジション」の委員発表、進め方も説明します。



## 『保総研の歴史 No.2』 今さらながら どうして 世界文化社(ワンダー社)との関係

Japan

Association of

Multidisciplinary Research for

Early Childhood Care and

Education

機関

多領域の研究

保総研と言えば、サポートブックやプリプリを発行している世界文化社(ワンダー社)との関係が密接です。さてどうしてこうなったのか3つの事を書いておきます。

1点目はワンダーでは平成1ケタ台に保育所を中心とした「保育情報」というのがあって、それを日保青年部長の坂崎が書いていました。その縁で実は、茨城の渡辺先生や現全私幼副会長の大阪の安家さんらと平成10年には実は幼保の壁を越えた本を出しました。(残念ながら現在廃版です。一方この経験は後に保総研の本を作る時に大変役立ちました)

2点目は保総研が出来て、そこに参画したのが、いや無理やり参画してもらったのが百瀬さんでした。百瀬さんの活躍は皆さんご存じ通り言うまでもありませんが、保総研のありとあらゆる場面でご協力をいただきました。大ヒットしたサポートブックをはじめとした保育本をわかりやすく読みやすくしたのは百瀬さんの手腕そのものです。更に会場の設置等、現在の塩坂さんにも大変お世話になっております。百瀬さんや塩坂さんとの個人的なつきあいもありますが、保総研としては大きな進展の一つになりました。

3点目はプリプリの発効です。たぶん学研のある雑誌に先行されていたワンダーとしては、新しい風を是非とも吹き込みたい、又幼稚園ばかりでなく保育所の人にも是非とも読んでほしいと考えたのです。そこで指導計画をどうしたらよいのかということでここで、保総研会長栴沢先生を紹介して本格的に参画してもらいました。なので※プリプリの発効には保総研は深く関わっています。前回ジャミーズの連載もあったように今後とも互いに情報提供できる良い関係を続けてもらいたいと思います。

※これによって現在の指導計画の仕事が保総研に来ています。是非とも会員全員で書くようにしていきましょう。

**こんな時に非常識だが。** いろいろな心配ごとをツラツラと。 【人事院勧告】 & 【9月入学】

### 【人事院勧告(・・・? 公定価格が下がるかもしれない)】

どうしてこの時期にと思うのでしょうか。人事院勧告と公定価格が連動していることから、以下のことを書いておきます。

少し先ですが、この時期だからこそ、皆さんと考えないと思います。今回はさすがにこうなったら嫌だと思いながら書きます。普通に考えると、今年一般企業の給与は減額になっていくのだと思います。こういうことは、例えばあの3.11の時でした。民主党政権の時に人事院勧告が下がって、当時の運営委託費を返還したことを覚えていますか。この状況だとそうならってもおかしくはない状況です。積み上げ方式上、公定価格が下がるのがルールです。

一方、今こんなに頑張っている保育所等がそうなるのは、どうしても理解できないとなるでしょう。普通に考えれば、8月には決まることなのですが、もう少し、頭を使って考えてみます。出来ることから水面下で動きます。

### 【もしかして9月入学(・・・? あり得ない)】

9月入学は賛否両輪だと思われます。そう単純にいかないことは誰もがわかることですが、一応書いておきます。問題はたくさんあるのだけど、保育関係で一番大きいのは学年のことだと思われます。

令和2年4月 現小学1年生 1年半 現5歳児 1年半 現4歳時 現3歳児 1年半

この学年だけは1年半 現5歳児までは4/2生まれ-翌4/1まで

令和3年9月 現小学1年生⇒2年制へ 現5歳児⇒1年生 ※9月入学を現行の4/2生まれ-翌4/1でそのままで行うかどうか  
現4歳児から9/2生まれ-翌9/1までを基本とするので 現4歳児だけは4/1-9/1の(5か月間)という完全少人数の5  
歳児とする。よって現4歳児が分断されることになる。ここできちんと 今後の教育の在り方を実施してみるべきかな。

現4歳時⇒5歳児 4/22生まれ-9/1まで

現4歳児⇒4歳児 9-2生まれ-翌4/1までと(この人たちが4歳時を長くやるという不利益もある)

現3歳児の4/2生まれ-9/1までとし ここから学年始まりと生まれを合わせる

※4歳児の9/2-4/1の人たちにとっては大変不利益になるが、それをやめて現4歳児4/2-9/1間の生まれを5歳児につけると、  
1年間1.5倍になると同時に その人たちは半年だけ5歳児というさらに不利益になる。

ということになるが わかるかな(・・?)

9月入学 私は賛成 ずっと前から それはあくまでも個人的。 夏が熱すぎるからね。夏の甲子園なんてもう限界だなあ。

でも皆さんは面倒だから 嫌だろうな 桜が散るのが卒園式や入園式が良いしいからなあ

真面目に言うと

そのほか、保育の需要増への対応、ついでにここに関わる保育人材確保への対応

指針や要領などの子どものケアへの対応、最後に企業との問題だと思いますが、社会全体の制度等との整合性など多岐に渡ります。

やっぱり 9月入学現実味ないかな こちらはそんなに盛り上がりたろうが。

文科省は1年半ごと5年後で検討らしいが、一般的にはなかなか難しいらしい。

※ご参考までに下記アドレスは9月入学の影響に関する報告書(文科省HPより)

[https://5abba01f-a1e2-4937-a2e9-6b4265c70836.filesusr.com/ugd/c02fe8\\_7fb7a7e84913458a84a0bf60e6708150.pdf](https://5abba01f-a1e2-4937-a2e9-6b4265c70836.filesusr.com/ugd/c02fe8_7fb7a7e84913458a84a0bf60e6708150.pdf)

広報紙 読みました 『東京 コロナ・ウィルス感染予防 関係報告』 (青木先生)

臨時ニュース2号永田先生の文章を読みました。

大阪も東京も本当に3月、4月と本当に大変でした。毎日毎日感染者が増加する不安の中、全く協力する気の無い保護者とのやりとりで気持ちが擦り減り保育現場も崩壊する寸前でした。

東京都も区で自粛か休園かで明暗が分かれ、法人内の施設でも休園か自粛かで別れる結果になりました。職員も住んでいる区の保育園が休園になったら出勤が出来ないですし、通勤し感染するリスクから不安も感じる職員もいるので、本当に対応が大変です。もし解除されてもまた宣言が出されたら一律に休園するようにしないと本当に現場は混乱します。東京の保育団体でも要望書は出したようですが状況は変わらないように思います。

永田先生の報告を読んで、やっぱり各地で困っているんだなと思い、今後皆さんと力を合わせてコロナに立ち向かっていければと思いました。

実際、3月に登園自粛の手紙を区から保育園経由で保護者に渡してもほとんど協力してくれず1割程度しか欠席してくれませんでした。育休ですら家で子供を見るのが大変だからと言って連れてきていました。緊急事態宣言を受けてようやく強い登園自粛要請を区が出しましたが、結局一人ずつ手渡しでお話をして休むよう伝えましたが、30人程は協力が難しいとのことでした。他区は緊急事態宣言が出たらすぐに休園になり、区が様式を整え、両親共に医療従事者等に限り緊急保育をするとなり、そちらはスムーズで混乱なく本当に必要な人が利用する形で保育士も休ませることが出来るようになりました。

同じ法人内で職員の格差が出てしまうのは、大変よくないと感じていましたが幸い4月13日から休園になりました。その後は5月6日までの休園、段階を踏んで、9日まで休園、そして宣言延長を受けて、5月31日まで休園となりました。

他の区は4月末の段階で育休復帰は10月1日にしています。要は宣言が明けても、新入園児は自粛するよう今の段階で呼びかけていることで、保育の現場が密にならないようにしているようです。東京は本当に区によって対応が違うの



で、保育園だけではなく、保護者もそれに振り回されているのではないかと感じます。もちろん区の職員の方も本当に判断が難しく悩まれる日々だと思います。皆が不平等にならないよう、そして緊急事態混乱しないためにも、一律に緊急事態や災害には、「休園」にして、子どもと職員の命を守るよう変わってほしいと思います。そして、ニュースでもあるよう、子どもと一緒にいて大変と感じる家庭は、保育園で見るのではなく、児童相談所などの公的な機関が見てほしいと感じます。一保育園が子どもと職員、そして自分の命を守りながら保育をするのは限界ではないかと感じさせられました。

長々と現状を綴ってしまいましたが、これが転換期になるのではないかと思います。東京と他の地域と温度差があるかもしれませんが、コロナはいつどこで感染し拡がるか誰にも分かりません。できれば一枚岩になって今後を考えていただければと思います。

**※会員の皆様へ 東ヶ崎事務局より/保総研としてアンケートを行いたい**

**「新型コロナウイルス感染における保育施設アンケート（案）」について**

「保育所・認定こども園は一斉休園状態になっても、社会福祉・児童福祉の観点から「必要な子どもの受入れ」使命な

ので、その状況が知りたいと思っています。 又、緊急事態宣言のみ自粛協力と保育料・給食費減免等経済的軽減を含めると自粛協力の違いが分かるとよいと思います。人材不足の中で給与や勤務の緩和等で投資しているかも分かればと思っています。 尚、保護者・職員への対応基準がはっきりせずに現場の対応が困惑しておりますが、困惑している項目が整理できていません。子どもの長期欠席による変化についても、通園していない子どもの変化について今回は無理かな。」

ということで「新型コロナウイルス感染における保育施設アンケート（案）」を行います。慎重な東ヶ崎事務局長としては、なかなか思い切った提案でしょう。（笑）このご時世ですので保総研としてもやれることはやっておきましょう。

## 編集誤記

広報誌読みました 第2弾 ⇒保総研臨時ニュース拝見しました。保育園の仕事…の箇所、心に響きました。社福か、株式なのか、まさにその通りです。時々、企業のような考え方になります。福祉の気持ちを忘れずに、自分達で出来る事をしっかり考えていきたいと思います。臨時ニュース3号、楽しみにしています。（秋田県の先生より）

秋田の先生本当に有難い。心が温かくなった。永田先生に対する青木先生のメールは何度も読み直した。東京や大阪の大都会の難しさ、そしてみんな保育現場で頑張ってるんだと本当に思う。園長や主任になると、目に見えない重い責任がある。そのことを社会にはなかなか理解してもらえないが、でもいろんな所で一緒に頑張っている仲間のことを忘れないで頑張してほしい。

一方、もう掲載されていないが4月「広報8」による保育所への誤解(医療関係者従事関係者の受け入れ拒否、これは5月時点でも朝の7時NHKニュースにも入った)や5月にはヤフーニュースでの「休園ビジネス」は、保育所等がこんなに頑張っているのに少し残念に思った。私たち自身が襟を正しく保育をするのと同時にその狭間の難しさを感じる毎日を理解してはもらえないのかと。

このよう中、5月14日は全国39の県で非常事態宣言が解除され、いよいよ全国的には、否応なしに「新しい生活」ながら、日常に戻ってくると思う。ここでこそ、いろんなことに気を付けながら、保育を展開していくしかない。

社会を支えていくのは、これからも保育所等だ。私は基本的には保育所でも良いとしてしても、学校教育に位置付けてもらって(言い方は悪いがこれで幼児教育と位置付けてくれるのであれば一応文句は言わない。皆さんはよくわかるが、小学校前、就学前教育を無理やりもっと議論してもらってその位置を高くしていくべきと考える)、いろんな意味できちんと評価してもらって、公定価格等をもっとあげてもらわないといけないと考える。あくまでも個人的だが、まじめに一部0歳児保育を残しながらも、全ての子供が1歳児入園でも良いと思う。相変わらず好きなことを書いているが、掲載してもらいたいことがあれば(青木が掲載してもらいたいとは全く思ってなかったとおもうが)是非とも坂崎にメールをくださいな。

この広報に対する内容については下記に電話等でご連絡を頂けると有難いです。

担当：〒039-4222 青森県下北郡東通村砂子又大字沢内9-35

保育総合研究会 副会長 坂崎隆浩 携帯：090-6252-3699

メール/[kodomoen.sakazaki@angel.ocn.ne.jp](mailto:kodomoen.sakazaki@angel.ocn.ne.jp)

(こども園ひがしどおり FAX: 0175-31-0203)